

「ありがとねー
おじさんのおかげで
補給うまくいったよー」

「いいんだよプルちゃん
そ、それよりも……」



「あ、そうだったね おじさんわたしと
エッチしたいんだったよね♥
じゃあ、どうしようか?」

「ゴクリ…
そ、それじゃあまずは…」



「あはっ

おちんちん踏んでほしいのー？
いいよーえいっえいっ

「ウウツプルちゃんの
タイト足ツツい…イイツ」



「あははっ♡

せーえきでちやったあ

踏まれただけでイくなんて

おじさんへんたい♡」

「ウウウツツ

はあはあはあはあ……」



「おじさん 大丈夫？
おまんこでもどきいるん？」

「もっ もちろんだよ
プルちゃんツツ」



「ずいねおじさん
もつこんなにかちかちに
なってるよお♥」

「おおッ プルちゃんの
おっぱいまんこオッッ」



「ふあッッ♥
はいったあッ おっきい…ッ
おっきいよおッ♥」

「うんぐんぐん
あッ あッ あッ あッ あッ



「おっぴん♡
もっぴんすっぴん♡
おまんものながいっしっしっよおっ♡」

「はひいッ
プルちゃん
そんなッ
激しいッッ」



「あああ……ツツ♡
いく……いく……ツツ♡
あー……ツツ♡」

「オウウウウツツ
し、搾られるウウツツ」



「はあはあ……おじさんのすごいね……
もっとな……もっとなおまんこに
せーえき補給してよお……♡」

「うう……か、可能な限り
がんばります……」





「あ…あなた誰ですか…?
…ミ…ミ…ミ…?」

「ウヒヒ…リイナちゃん…
おじさんはね 前から
リイナちゃんの事見てたんだよね」



「きゃッ!?!」

「や、やめてえッッ!」

「グヒヒヒンニなら

誰も来ないからねえ

さあ全部脱ぎ脱ぎしようねえ♡」



「ああ……やめて……
やめて……ください……
おうちに帰してえ……」

「グヒヒヒ……なら
誰も来ないからねえ
さあ全部脱ぎ脱ぎしようねえ♡」

「あああッッ
いやああッッ！」

「はあはあ……
想像してた通りの
かわいいおまんこだよ♡」
「♡」



「え……？」

やだッ やだやだあッ！」

「ウヒヒヒ おじさんと

セックスしちゃおうねえ

や、やさしくするからね……」



「うぐうぐうぐうぐ……
うぎい……ツツ」

「オオオツツ……ん？
な、なんだこれ 処女じゃ
ないじゃないか……ツツ」



「ああツツ あッ あーツツ
たすけてッ たすけてッ
お兄ちゃあーんツツ」

「くツ くそッ このビッチがッ
やっぱりあの兄貴とやってたんだなッ
このッこの…ッ ウウウッ イクツツ」





「はあはあはあはあ……」

あうう……ッ ううッッ

お兄ちゃん…… お兄ちゃん……」

「はあはあ…… フフヒヒ……」

リイナちゃん もう帰さないよ

おじさんとずっと一緒にいようねえ……」



「クエス！
お前はまたそんな格好で
ヨクピットに……」

「いいじゃないか
あんたもこの方が
うれしいだろう？」

「ほら ロリコンは
こういうのが好きだって
聞いたよ?」

「ウウツツ
だ、誰に聞いたんだよ
まさかシヤア総帥に……」



「あんたももう
かちかちじゃないか
ほらほら♡」

「や やめろ……ッ
足でなんて……ッ
うっうっ……ッッ」



「ウウウウツツ
こころんな…屈辱ツツ」

「あははははッ♥
でたでたッ せーえきだ!
びゅびゅーって出たよッ♥」





「ううう…
クエス…」

「ふふ…このせーえき…あたしの
おまんこに入れたいんだらう？
いいよやらせてあげる♡」

「ほら…きなよ
あんたの童貞…
もらってあげるからさ」

「ちゅちゅちゅちゅ……
ちゅちゅちゅ 舞臺からさー」



「あ……っ
チンチンはいっただツツ
あううツツ」

「おおおツツ
クエス……ツツ」



「はあはあ…
いい…いいよお…キモチいい…ツツ♡
大佐あ…ツツ♡」

「ク…クエス?
くそツツ…ツツ…の…ツツ」



「あッ♡あッ♡すっごいッ♡
チンチンすっごいよあッ♡
あーッ♡♡イ〜ッ♡イ〜ッ♡」

「い〜い〜い〜い〜い〜い〜
おっおっおっおっおっおっ」



「ふっふっ よかったよ…
初めてにしては…ね♡」

「今度は…おまんこ
舐めさせてあげる♡」



「……………」

「へへへ…そんな貧相な身体
隠すまでもないだろ
オラ手をどかしな」



「……………」

「いい子だ 大人しくしてりゃ
悪いようにはしねえよ……」



「……あ……」


「はあはあ……こちとら(無沙汰でなあ
物資も回ってこねえし
オナネタにも事欠く有様よ……)」



「ウウツツウツ
オラツ 出ると見ろツツ」

「.....」






「へへへ嬢ちゃんちゃんと金は払うからよ
いいだろ……なう？」

「……………」

「うへえ すごえ ぼろ屋だな 本当は
こんなとで暮らしてんのか?」

「し、静かにしてください
カルルが起きちゃおう……」



「しかもガキまで居やがるとはなあ
このマントでこれだけ客取ったんだ？」

「あ…カ、カルルは
わたしの子供じゃ……」

「オラッこのビッチマンコ！ もっと締めやがれッ
使い込みすぎて元元ルルじゃねえかよッ！」

「ぶっ……ッッ
うグッ
ギョ……ッッ」



「お……っケツの方はなかなかいい具合だぜ……っ
はあはあ……もももっとな締めろっ イクぞっ イクっ」

「ああッ いたいッ あ……ッ
おしりイヤ……ッ
いやああー……ッ」



「はあはあ 腐れビッチのケツマンコなかなか
良かったぜ… 気が向いたらまた来てやるからなあ」

「うう……ッ」

「ガキを抱えてオマエも色々と
要り様だろ？ そうだ他の奴にも
教えといてやるよ へへへ…」





「こんな路地裏で客曳かなきゃ
ならないなんて 火星はホント
荒んでるなあ ねえお嬢ちゃん？」

「……………」

「苦労してるんだねえかわいそうに
パンツも大分汚れちゃってるねえ
……………くんくん」

「……………」



「せ、せめて おじさんが
キモチいいことしてあげるからねえ
はあはあはあはあ……ツツ」

「……あ、あの……
ゆっくりおねがいします……」





「うっうるるっ」

ボボボクに指図するなッ
この売女の小娘がッッ!

「うあああッッッ!」

「どっどっだッ キモチいいだろッ!
どっどっもどっどっもボクを
馬鹿にしやがって……ッッ」

「うあッ いたいッ
く……くるしいよお……ッッ
おじさんやめて……」





「オラッッッ！」

オマエめたいなゴキウ娘

マンコくらいしか価値がないんだからなッ！」

「はう…ッッッ　うっうっうッッッ

は…はやくおわつてえ…ッッ」

「出すぞッ！」

孕めッボクの
高貴な種を孕めエエッッ」

「あッあッあッ
あぐうッッひあッ
あ……ッッ
あーッッッッ」





「ラライヤちゃん
今回もおじさんと
いい事しようねえ♡」

「んー？
なに？」

「ほーら ラライヤちゃんの大好きな
おじさんちんぽだよー」

「あはっ♡
ちんぽ ちんぽー♪」



「オフウツ すすい吸いつきだ……ツ
出るツ ラライヤちゃんツ
おじさん白いのでちゃうよツツ」

「んむー？
んっんっん」



「うぐうぐう
オラッ 舌出さんッ」

「あははー
しろいのでたー♡」



「はぁはぁ……うへへへ
良かったよファイヤちゃん
それじゃあもうとどいてとどしようねえ♡」

「うん
イイコトするするー♡」



「ふあああん♡
あー♡♡ああー♡♡♡」


「オラッ オラッ
イイカッ チンポきもちいいカッ！」



「いーっ♡
ちんぽいーっ♡
きもちいーっ♡」

「ウウツツ
いくぞオラツツ
しっかり孕めよおツツ!」





「とまあ、こんな動画があるんですけどね
これどうしましよつかねえ？
ライヤさん♡」

「ひっ 卑怯者ッ！
わたしが曖昧な時に
こんなことを…」

「グヒヒ まあ御託はいいで
とりあえず前めたいと
チンポもむしやぶらうてくたせうよ♡」

「ひいッ!？」
そそんな事出来る訳が…!」



「まあ駄目なら駄目でこの動画を全軍に向けて
配信するだけなんでね…
解つたらとっとと脱げのバカアマガツ！」

「あ…う…
は、はい…う…う…」



「ふふふ... ふふふふ
ふふふふ...ふふふふ」

「オラもっとな子犬みたいだ
しゃぶりつけよッ!
前はそうしてただならうが!」



「うぶ……ッッ
おええええ……ッッ」

「チッ 仕方ねえなあ
じゃあマンコの方でしっから
チンポの味を思い出させてやるよ」



「あああッッ！
なにッ！？なにこれえ…ッ
あーッッ」

「>>>>…
こっちはしっかりヌルヌルだなあ」



「あーッッ♥
すっごいッ♥これすっごいッ♥
きもちいいよオッッ♥」

「オウツツ ウウツツ
そうだッ 前みたい自分で
腰振るんだよッッ」



「ああーッッ♥だめッ♥バカになるッ
またなにもわかんなくなるウツ♥
ひああーッッ♥」

「ウウツま、また前みたいにか
わいがってやるからな…
ラライヤちゃん♥」



「おじちゃんだれ…?」
「おじさんだれ!?!」

「お兄ちゃんがああいう事になって
大変なんだってねえおじさんが
助けてあげるからねえ♡」



「はあはあ……
かわいいよお二人とも……」

「ぬいだよー」
「なにするの……?」



「ウウツ 見てッ
おじさんのオナニー見ててねッ」

「おちんちんこすってる…
いたくないのー?」



「オオウツ
ウツ
ウツ
ウツ
ウ……ツ」

「わっ
なんかでたー！
しろいおし……！」



「ほんばん…?」
「ほんばんー?」

「はあはあ…それじゃ高いお金も
払ってる事だしそろそろ本番いこうか♡」



「そこのおちち...
どうもどうも...」

「えー？ なにー？
「おじちゃんなにをするの...？」」



「ひどぐ…ツツッ!?! いたい…ツツッ!?!」
「え? え? なにしってるの?」

「おおツツッ」
「おおツツッがいきついなあ…グヒヒ」

「ぎゃひいっ！？」
「あぁ……ッ はぁッ はぁ……ッ」

「ウウウッ……ちも
プリプリしてて…… たたまらんッッ」



「あー……ッ おにい……いたいよお……たすけてえ」
「あううう……ッ おにいちゃん……おにいちゃん」

「はあはあ…… 良かったよお二人とも
これからがんばってねえ♥」



